京橋の印刷

12月15日 1986・No.66

東京都印刷工業組合京橋支部
〒104 東京都中央区新富1－16－8
日本印刷会館3F　電話 552-1855
編集　近藤正弥　田島　弘　柴田博司

沼津から見た富士山（昭和16年12月8日朝、太平洋戦争開戦の日）　松原友則（1988～1983）

中央区工業文化展終了のお礼

支部長　小山　英美

「中央区における工業活動についてその歴史的歩み、現状、未来への展望などを広く都民、区民及び関係業界に紹介し、中央区内工業の振興発展に寄与すると共に、青少年に対する―地域産業教育―にも資する」目的で、中央区・中央区工業団体連合会の共催のもとに十月二十三日より六日間日本橋高島屋で'86中央区工業文化展が催されました。

中央区の中心的地場産業である印刷業界として、「印刷」の将来を展望する姿を親しく見ていただき、深い理解と認識をいただくふれ会いの場にしたいと念じ、印刷機および関連機器の出展実演をいたしましたところ、区内学童一千四百人を含む一万五千人の来場者があり、連日熱気に包まれた中で成功裡に終了いたしました。期間中寄せられた児童はじめ来場者の数多い熱心な質問や、真剣な観覧態度に接し得たことは望外の喜びでした。また特筆されることは、日本では始めてデパートでの四色機による印刷実演でした。これも偏えにご協賛を戴きました企業を始め会場でのご奉仕の方々、機器出展企業のご協力の賜と心からお礼を申し上げます。

また立案計画から開催中の運営にいたるまでご努力を惜しまれなかった実行委員の皆様には衷心より敬意を表し感謝申し上げます。

印刷の将来性をPR
「'86中央区工業文化展」開催
10月23日～10月28日　於・日本橋高島屋

隔年に開催される中央区工業文化展も第4回を迎えて、好天にも恵まれ、10月23日より6日間、日本橋高島屋8階にて開催されました。

前回に続いて百貨店の催事場にて北海道物産展と恒例の我楽苦多市の併催で初日は大勢の買物客でごった返していましたが、文化展の会場は隅の別間に、展示されていたせいか、買物客はあまり入場しませんでしたが、横関区長と宝田工団連会長のテープカットの後、見学の小学生の団体が、どっと押しかけて大変な騒ぎでした。横関区長は別館で行われたレセプションで、「この工業文化展は区内に於る産業活動の重要な担い手として、広く都区民に展示を通じて知って欲しい。」と挨拶した。引続いて、宝田工団連会長も「この文化展は歴史あるもので、我々二世たちの認識を深めて欲しい。」と述べた後、西川中央区議会議長の乾杯の音頭で開催を祝った。展示会場では地場産業である印刷・製本関連が大半を占め、印刷コーナーでは百貨店では初の4色印刷機（ハイデル・印機貿）や、コンピューターグラフィックス（ダイナファイン・大日本インキ）、そして人工衛星を利用し世界を結ぶ画像電送システム（大日本スクリーン）等の展示が特に目立ち、中央区の中心産業としての印刷業のPRに効果をあげました。

又東印工組関係ではコンパート、情報処理文字組版システム（印機貿）の展示実演や印刷PRビデオも放映されました。

製本コーナーでは和本綴じやマーブル装飾の実演が相変らず人気を得ていました。会場設置の四色機で印刷した子猫やスポーツカーのポスターや便箋、下敷き、年賀状見本や紙飛行機等も無料配布されて小学生に好評を博しました。

今回の入場者は、小中学生の約千四百人を含めて6日間で約一万五千人もの人々の入場が記録されました。6日間に亘って行われた展示のために企画準備に尽力された実行委員の方々、商工課をはじめこれをバックアップされた各協賛会社のご協力に心から敬意を表します。

又、日本精版印刷㈱中村社長の御好意により、下敷き、スケール等を多量にご寄贈頂きまして、誠に有難うございました。

（編集部）

右から荒川実行委員、小山支部長、佐藤実行委員

右から横関区長、ミス中央区、宝田工団連会長

各コーナーに群がる生徒達

生徒達に囲まれて、
疲れも忘れる小山支部長

京青会主催 ”商売は笑売“ 桂小金治師匠講演会

十一月十九日（木）京橋支部印刷人青年会は、中央会館において夕刻六時三十分より講師にテレビ、映画でおなじみの桂小金治師匠を招き恒例の講演会を開催した。

当日は協催の京橋支部組合員に多くの参加を呼びかけ、日本橋支部の若人たちの友情出席もあり、約九十名の盛会となった。

小宮山幹事の司会進行により、小山支部長が「京青会の行事としてこの催しが開かれること、中央区工業文化展における京青会の協力に対する感謝のことば、さらに最近の地価高騰問題にふれ、行政への要請、印刷工場用地確保等の働きかけ、またそれらに関する組合員の声を」との挨拶があった。

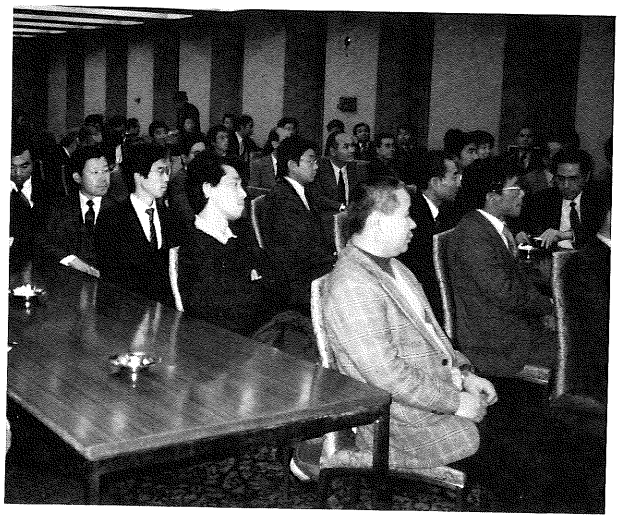
つづいて講師の紹介があり、熱烈な拍手のうちに講話が始まった。

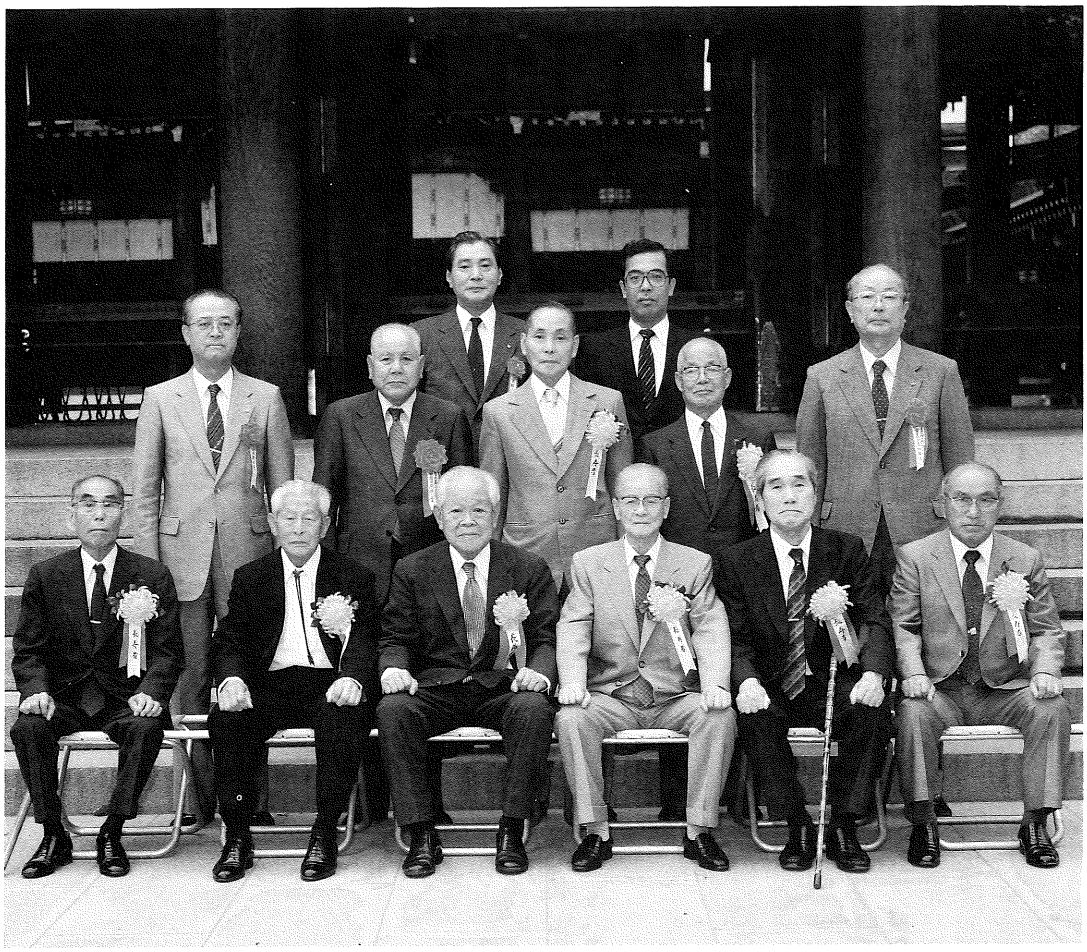
師は話のなかに自己紹介を交えながらユニークな話法と、タレントイメージとは異った格調高く、しかも平易な言葉で聴衆の耳目を集めた。

師は、生いたちについて、その幼少期に父親からうけた躾の厳しさによって今日の自分があることを強調し、実生活の中の具体的体験をあげて語りかけた。家業の魚屋での不用木箱の利用法（解体した木箱を一定の寸法にして薪になるようにし、魚を買い求めに来た客に利用していただくこと、またそのどき出る釘を一本一本伸して再利用すること）が顧客に喜ばれ、またそれが貧困なわが家における子供の日課であったことや、貧困故に玩具が買い与えられないなかに、自分で工夫して遊び道具を作った想い出、通学服がつぎはぎの一着でそこからアダ名がつけられたこと、終戦による復員から落語界に入るきっかけは混迷の中の生活苦はもとよりながら、経済的理由がそうさせたのであるが、幼少より培かわれた忍耐努力ひいては父親より受けた生きた教育であったと述懐していた。結婚に至るロマンスのはじまり、三人の子供とその孫のこと、平和で楽しい家庭が営なめるのも、教えられたごく当然のマナーがその根底にあり日常の積極性と忍耐であり、たえず謙虚に好運強運に奢ることなく笑顔と周りの人々や親に対するおかげさまの感謝の気持をもちつづけていると有意義な実体験に、一時間三十分は噺家の芸のなかに涙と笑いの感動の連続であった。

今日的な問題として家庭内教育、学校教育にあるいは社会生活の一員としてのあり方に強烈なインパクトを与えられたことは、参加者一同全く共鳴するところではなかったかと思う。

（編集部）





昭和61年9月19日　第20回敬老の集い　京橋支部　於 明治神宮

後列左より、長島常務理事、石沢相談役、小山支部長、広瀬徳次、小倉厚生委員、佐藤富次郎、小宮山副理事長
前列左より、羽生通成、瀬戸昇之助、中村謹吾、白橋龍夫、山内吉之丞、鎌田実の諸氏

第20回 東印工組 "敬老の集い"

京橋支部に七十七歳を越える長寿者 なんと三十六名!!

東印工組主催で毎年恒例の"敬老の集い"が好天に恵まれた九月十九日明治神宮（参集殿）において行なわれました。

当支部においては、対象者は三十六名の多きにわたり、当日の出席者は八名でした。

他支部からは、「京橋は長寿村だネ。空気がいいからネ。」という冗談もいわれるほど、「いや、お年寄を大事にしてるんですヨ。」と答えておきました。

当日出席下さった、石澤本部相談役、小宮山副理事長、長島常務理事、小山支部長等と本殿前にて記念撮影の後、楽しいパーティー・懇談の一刻を過ごしました。

今後も皆様ご健康ですごされますようお祈り申し上げますと共に、私共に対し、大先輩の知恵をお借し下さいますようお願い申し上げます。

（小倉厚生委員）

危ない会社の見分け方（4）

―実戦的経営術―

60・10・16（中央区役所商工課セミナー）

講師　SABコンサルティング㈱
中小企業診断士　井上　敬

7番目に気を付けなければならない事は、皆さんこれだけセミナーを聞きに来られている位ですから今迄に聞かれた事があると思います。

損益分岐点というのと収支分岐点というのがあります。損益分岐点というのは、自分の会社の売上額をいくらにすれば収支がとん〳〵になるかという事です。儲けにもならないが赤字にもならないという事です。

又収支分岐点というのは会社である以上、他所から原則として借金していますね、それから積立もさせられているというのが普通です。そういうもの全てを含めて、会社が廻っていくにはいくらの売上高が必要かという事です。それを収支分岐点といいます。これに経営者が大体にでも答えられないというのは現実に会社の内容を全然摑んでないという事です。私はいつも、自分の部下には、診断に行って少くとも10分以内にその会社の損益分岐点を当てられなければあなたの能力はないと言っております。勿論相手の話を聞いただけでです。

社長と話をして従業員数、車数、荒利がどの位あるか聞いて、10分以内に「大体お宅はこれだけ売上げがないと赤字でしょう」と言えない診断士は診断士ではないというのが私の持論です。まあそれには相当実戦を経てないと出て来ません。倒産する経営者はこれがよく言えません。摑えてないという事です。この辺は皆さんも外から見ただけでは一寸わからず入り込めません。でもこういう人が多いという事です。

8番目としては先程触れた詐欺の話だけは気をつけて下さい。これだけは用心して下さい。

9番目は趣味没頭型。これは最近少くなりました。一番多かったのは模型飛行機の華やかな頃です。経営者が模型飛行機を持って浦安まで行って会社に居なくなってしまう。夢中になって朝から晩迄飛ばしていて、墨田区ではこれでつぶれた所が4社位ありました。模型飛行機といっても金額で一億近くかけている例があるのです。無駄使いというやつです。10年位前にTBSでB―29の模型を作って飛ばし失敗した事をご存知かと思いますが、B―29の1／10かの模型飛行機を作って失敗した時の社長の会社も私は手がけましたが、この頃は模型電車に変ってきました。家の中じゅうに拡げているとか、趣味の内はいいが昂じて夢中になってしまうのはどうもいけません。早めに注意した方がいいのです。

10番目に、これは見抜けにくいのですが、経営者の特性。この経営者はこういう感じでやっているのだなあという事がわかると思うのですが、物事の意志決定をする時に経営者が何を基準にして決定しているのか。まず六つの型がある。

①技術的合理性―これは機械工業に多くみられます。同じ機械を使うなら多く生産できる方を買うものです。売れる、売れないは関係なく、機械惚れするというものです。機械ばかりいいのを持っている。特に今後増えてくるのが、リース倒産です。59年からリース倒産だけで、16件位相談を受けました。手取り早く現物が入るので、皆、リース〳〵でコピーからコンピューターまで、一件当りは月4万とか5万で安いのですが全部合計すると50万円にもなったという例もあります。知らない内に増える。所が一旦、リース契約をした場合、契約解除すると商品価格の90％も取られるのです。

次の日に返せばただではないのです。皆さんよく勘違いして簡単に入れるのですが、約款を読むとちゃんと書いてある。その機械の90％を払わないと機械は引取ってくれません。特に手

形なんか取られていたら大変です。工場等では一台6千万～7千万という機械はザラにあります。それも5年10年となって手形を入れると大変です。応々にして機械惚れして高価な買物をするのはいわゆる機械工出の技術屋の人が多い。

②経済的合理性を主体にして意志決定をする人。これは売上げを伸せ〳〵というもので原価なんかどうでもいいのです。原価はこれで、売上を伸ばせとか、荒利はこれだけ確保して売上げを伸ばせと言わねばいけません。ただ売上を伸ばせ〳〵だけです。これはセールスマン型で営業出の人がすごく多い。営業出の経営者は原価を忘れちゃってるようです。そしてつぶれるとこれは負債総額が一番多くなります。

③番目は自己の利益を重視する型。会社ではなく自分自身の利益を重視する型。会社ではなく自分の儲けを中心に考える。経営者そのものの利益を追求する。いわゆる〝ゼニゲバ〟の一種というものです。従業員には世間並みの給料を払っておけばいい。それ以上払う必要はない。要するに自分の取り分、資産を殖やす事を中心に考えるタイプです。先程触れた倒産しがちな経営者の4つのタイプ（車の換え過ぎ・汚い実印・無責任・無目標）の経営者は全てこれなのです。4つ共、この型の経営者が多い。

④人間性を重視するもの。これも多いのです。従業員をすごく重視するのです。うちは世間より給料を多く払っているとか、いや福利厚生施設はちゃんとしているとか、従業員がよくやってくれるので従業員のためにしなきゃという事を重視して経営しているもの。

⑤社会性、公共性重視。公害や環境重視等で、近所に迷惑だから防止装置をつけなければと、水のたれ流しでわるいから、ろ過装置を付けなければと率先して完備するタイプ。普通は注意されてからやるものですが、又指摘されてからやれば無利子の金が借りられるのです。気の弱い人に多いのですが、これが元でつぶれたケースがある。この公害投資は短期的には一円の儲けも生まない投資なのですがこれを重視するタイプ。

⑥自分も利益が欲しいし、従業員にも良くしたいし、何でも一度にという欲ばったタイプです。

これら6つのタイプは皆真実で、経営者のトップの山城先生がいわれるのですが、経営者の型にはこういう6つのタイプがあってこの経営者が、おかしくなるという事がつけ足してあります。私はこれを引用したのですが、この意志決定の原理はどれも正しいのです。決して間違っているものはないのです。この真ん中にいるのは、経営者じゃない。それは企業を診断する我々でいいのです。我々診断士は真中で見なければいけないのですが、経営者が真中でみると何も出来ない人です。必ず①～⑥のどちらかに片寄って意志決定をする。その時にやはり安定した経営をしていくには③の自分利益を主に考えていく場合は仲々つぶれません。私は山城先生の前で講義した事もありますが、私は経営というのは〝ゼニ〟だというのです。実践上、経営というのはゼニなんだと。ゼニに始ってゼニに終るという事です。要するに人が最初評価するのはあの人は人が良いとか、あの人は社会的に奉仕したとか言ってもゼニがなかったら、みんなソッポを向くのです。最終的には経営者というのはまずゼニを集めるわけです。

それをどのように配分するかという事が大事です。所が学者等にいわせると、人・物・金・情報だというが、実践ではまずゼニに始ってゼニに終るのです。その間をどういうふうに配分するかという事です。

普通、税務署の調査等で現金が合っていないとおかしいといわれますが、特に小売店等では、現金出納帳と現金残額を出させて合わないのは当然だと思うのです。合わないのが普通です。合っている所は必ず何か操作をしています。突然行って現金と出納帳が合う事は少ないです。だから私はよく税務署とも議論するのですが、それが合うのは税務署が調べに来るというので意図的に合わせたのだという事をいうのです。まあ現金は別にしまして、預金、つまり銀行取引、これには経営者は4種類の型があります。まず1行主義、つまり1行としか取引しないという方、そして2行から3行主義という方、信用金庫と銀行の両方を持っているとかです。

もう一つは多行主義ですね、これにはふたとおりの種類がありまして結果的に多くの銀行と取引した所と原因があって多くの銀行と取引するようになった所と二つあります。

1行主義の所は比較的堅い経営者が多いです。

2行主義3行主義は政治的能力のある人かそれを欲しがっている人です。ですから1行主義ではつぶれる事は減多にないです。余程の事がないと起らない。2、3行主義も政治的能力家ですからうまいのですが、つぶれた時は負債が多いのです。それから多行主義の場合も、結果的多行主義では、企業診断に行くと10行位ある所もあります。小さな企業なりに3、4行も当座を持ってまして、そしてすごくお人好しの経営者が多いのです。従って詐欺にかかりやすい。そしてつぶれても債権者から同情されるような経営者が多い。つまり、銀行が来るとか頼まれるとつい積立てを始めるという経営者です。それから原因があった場合というのは、不渡りを喰った場合に、一時的に資金の需要が必要ですね、そうなってあちこちから借りまくるわけです。そして借りすぎておかしくなる所がでるというわけです。それでこれは預金過多と同じ事で、これに対応して反対側にあるのが、借入金ですが借入金の場合も二通りあるのです、初めから借入金がある場合と結果的に借入金が多くなった場合です。そしてこの借入金が多いのにも金額が多い場合と口数が多い場合があるのです。1千万円ならそれを1本で長期で借りている人と2百万円づつ5本で借りているという人です。200万円位ですと短期返済になってしまうのですね、長期の場合ですと月に10万の返済でいいわけです。ところが手形ころがしで借りていると毎月の返済が50万円位になるのです。これは元々当初のお金の借り方が失敗でつぶれていく、銀行の返済でつぶされてしまう事があるのです。不渡りを出すのも金額が多かったのと口数が多かったのと二つある。

資金は出来るだけ長期で、少く共、金額の多いのはまだ何とかなるのですが、口数が多いのは財務的にすごく圧迫をするのですだから借りる場合は極力口数をおさえなければいけないのです。倒産した所は債権口数が平均して6本、多いのになると16本位あります。比較的金額は少いのですが毎月返済が多いという、そのために毎月返す金が多いという事になり、おかしくなるというわけです。今は金融が一番ゆるんでいる時ですから本当は金額は大きくても長期にしなければいけないのです。

先月もある相談を受けましたが、ビルを作った時に当初信用がなかった所ですから多くの銀行から借りたわけです。何行もの銀行から5年の短期で借りて、資金繰りが悪くなって相談があったのです。そこで私は一寸知っている銀行に頼んで、担保価値も充分ありますから、口数に6千万円全部1本にしてまとめてあげて、尚且住宅ローンにして組み替えてあげたのです。20年ローンにして月54万円位で済むようになり、これで立直りました。利益以上に金利が以前はかかったからです。

このように相手側の企業を調べる時に何行からどういう借り方をしているかという事がすごく大事なのです。ですから金額が多いからおかしいという事ではないのです。特にこの借入金の中で企業が赤字の会社で生きているという場合、これが銀行から借りているのか、社長個人が貸しているのか、町金融やサラ金から借りているのか、これによって借入金の内容も全然違ってくるのです。赤字の会社で内容がいいというのは給料をどんどん取っちゃうのです。経営者が取って足らない分だけ貸し付けているのです。借入金の内、経営者が貸付けているのが8千万もある所がザラにあります。そんなのは資本金ですから、資本となるので借入金が多いからこの会社と取引しない方がよいとは言えないわけです。それを資本の方へ入れれば超優良企業になっちゃうのが沢山あります。ですからまず、借金の口数をみてもらう事です。金額より口数の多い場合は返済対応がわるくなります。

それから個人からが多いのも問題ないですが、ただ簿外債務から持ってきてもこれはだめです。ヤクザから社長が借りて入れているというのは抜きにして、これはある程度流れを見れば判ります。中小企業の場合個人が入れてたら、別に借金でなくて資本なんです。そして銀行か、町金融か、サラ金からの借金なのかという区別です。私もサラ金の顧問先を6社持ってますが今日では、サラ金から借金しているかどうかは、住所、氏名、年令が判れば5分以内に判ります。それ位個人情報網が発達しているのですね、銀行さんが欲しくても仲々手に入らない。私の顧問先の会社の従業員は年に一回全員調べます。

（次号に続く）

地区だより

新富地区会

ＤＭＬ見学会

昭和61年9月10日

ＤＭＬ（Daito Media Laboratory）見学会が九月十日（水）「地区会員十一社の参加で行なわれました、当日はレスポンスシステムに強い興味を持つ会員の方が多く一社で2名以上の申し込みもありました。午后三時大東印刷工芸㈱の本社前に集合、ＤＭＬのある大東月島工場へ移動、工場四階で吉川工場長よりレスポンスシステムの概要説明が質疑応答を交えながら約一時間にわたり行なわれました。

ＤＭＬは約一年前より実際の稼動に入っており、ただレスポンス機械の展示説明会だけでなく、実動の作業、仕上り作品を見ることが出来て会員の皆さんには納得のゆく見学会となったようです。

作業中のものは、レコード会社のポスターで、マルチ処理、ゴースト、リゾリューション、集版、修正などで技術者が反復説明を加えながらの作業をしてくれました。

レスポンスシステムとは画像処理装置でありカラー写真をシリンダー上でスキャニングし、画像をデジタル信号に変えてコンピュータ磁気ディスクに記録し、そのデータをブラウン管上に表示、編集し、最終的に印刷用の製版フィルムで出力するものです。デジタル化された画像をコンピュータで制御処理する技術は、

◎リゾリューション
画像を構成している単位（1㎟当り12×12＝144の画素で構成される）でレスポンスはこの従横の比率を変えて特殊画像を作り出す。

◎ＣＭＭトーン変化
入力時の四原色のトーン・カーブを自由に変化させることが可能で思うような色調整をしながら作成することができる。

◎ローカルグラデーション
切り抜きマスク使用で、簡単に入力画像がもつハイライトからシャドーの調子を変更する

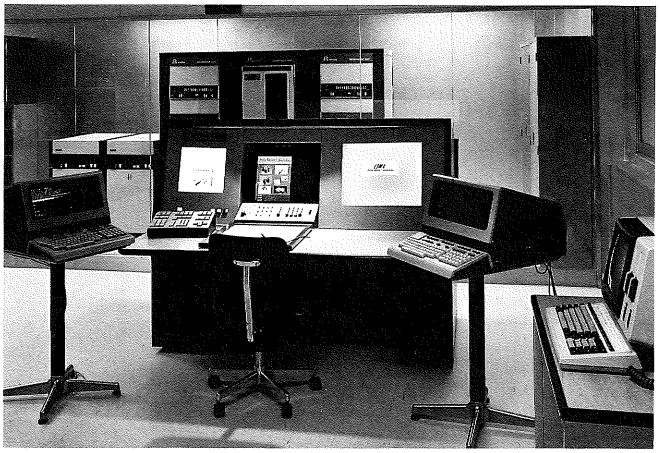
◎エア・ブラッシング
電子ペンのノズルでエア・ブラシと同じように、画面をボカすこと

◎デフォルメーション
通常の画像を変化させることで画像の従・横の比率を自由にかえられる

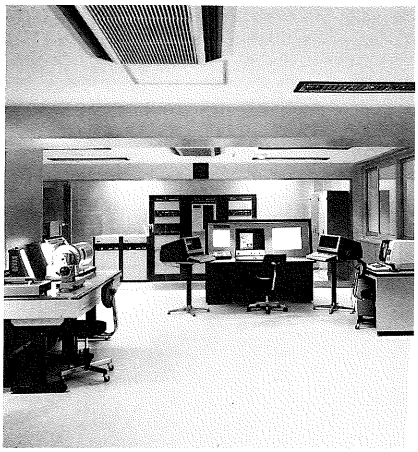
◎切り抜き、はめ込み
通常製版と同じ操作であるが、切り抜きマスク作成は画面を拡大して行うため精度が高く難易度の高い女性の髪の毛・森林風景などは連続階調で処理をして網カケを行うので、手作業では出来ない精度の高い自然的なものが出来あがる

◎カラーブラッシング
今までのスプレーではなくコンピュータ自身でカラーブラッシングが行えるので、ムラがなくきれいに仕上がる

◎コピー（絵柄除去・周囲同調）



画像処理デスク



レスポンス設置状況

絵柄の複与やカット、トリミングなども画像上で確認しながら除去したり、他の色や絵柄に置きかえられる

◎ゴースト（絵柄の重複）
二つ以上の絵柄の重なる部分の調子を、相互に生かして重複することが出来る。

◎コンピュータグラフィック（CG）
版下が揃えば、CGを画像上で作成し、製版用フィルムとして出力できる

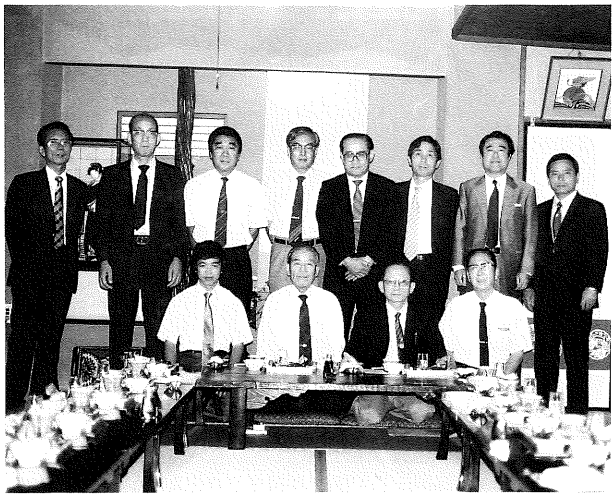
◎集版合成
通常の製版での集版工程を画像上で処理し、A全判サイズまで出力できる

◎メモリ
以上のような多彩な画像処理データを磁気テープにメモリし、いつでも自由なサイズで製版フィルムとして出力する

このように通常製版技術で出来ない数々の性能をもったレスポンスの実際工程を体験して、大いに製作意欲をかきたてられました。

この知識を日常の営業活動に生かして受注拡大に結びつけられるようにしたいものです。

見学会が終ってから築地市場外にある、活魚料理〝磯乃家〟で懇親会に移り、業界や需要情況の情報交換など、和気藹々のうちに有意義な見学会を八時に終了いたしました。



第八回有機溶剤作業主任者技能講習会

日　時　昭和六十二年二月十二―十三日
　　午後四時―同九時
会　場　飯田橋セントラルプラザ十二F
定　員　一〇〇名
費　用　一名に付き七千五百円（テキスト代軽食代含む）
申込方法　申込書（本部に用意）に記載の上、郵送かFAX（553―二六五三）でお送り下さい。

〒104　中央区新富一―十六―八
東京都工業組合　公害労務委員会

築地地区互友会懇親旅行会

袋田―西山荘―大洗―笠間稲荷

好天に恵まれ絶好の旅行日和となった。旅行には天候の良いことが何といっても最高の贈り物である。地区長、幹事が新しくなって初めての懇親旅行は佐野幹事のプランと肝入りでしかも好天付きに感謝する。互友会としては茨城方面は初めてだそうで総勢二十人いつもの通り、熊谷印刷前から出発。途中守谷で一服しただけで一路最初の目的地袋田の瀧へ向う。常磐高速はドライバーにとってすこぶる評判が良い。快適である。窓越しに一望千里つくば山や秋の田園風景を目にしながら皆思い思いに飲み物を口にくつろいでいる。製氷器、電話付きのデラックスバスはガイドさんと共に好評であった。

十二時三十分袋田の瀧へ着く。駐車場から瀧までの間の隧道をゆっくりと登りながら展望台へ。名にしおう名瀧である。しばし足をとめ瀧の網目のような白い流れを追う。一同記念写真をとる。ようやく空腹をおぼえ遂道を下りる。小さな袋田のみやげ物店をひやかしながらいくつかのみやげを買う。袋田温泉で昼食後西山荘へ。

一時間程で西山荘に着着く。水戸藩二代藩主徳川光圀（一六二八―一七〇〇）が晩年隠居して「大日本史」を編さんした場所として有名なことは今更云うまでもないことだが、質素な家屋には感心させられた。特別すばらしいという庭でもないが歴史の編さんに没頭した当時の姿はどうだったかと思いを馳せて見る。昼でもうす暗く感ずる建物の中で、わずか三畳の書斎、行灯だけの明るさの中で一日どれだけ作業が進行しただろうかなどと。みな一様に当時に思いを馳せながら見学していた。日頃テレビの水戸黄門での情報をふんだんに持っている一行にとってはそんな気持ちが強かったのかもしれない。

西山荘を後に一路大洗ホテルに向う。東海村を過ぎ急に前方が開けた大平洋が視野に入ってきた。ホテルは九階建で海岸なので眺めは大平洋を一望千里といったところ。大風呂が九階にあるのも一つの特徴。夜は皆一様に待った楽しい宴会、四人のコンパニオンが陽気に迎えるものだから、ついのせられて、地区長を先頭にまずカラオケで皮切り。佐野幹事の推せんだけに料理はまずまず。ガイドどおりの料理。たまたま車えび祭りとあって活車えびをたっぷり味合う。料理よし、コンパニオン良しとあって、遂にダンスも始まった。地区長、幹事が若返ったためもあってムードの盛り上げに全力。しかし従来より日本酒の注文が減ったように見える。楽しい一夜がお開きになって思い思いに部屋へ。翌朝はすばらしい天気に恵まれ、早朝から旅行気分はタップリだった。朝食後は早々に笠間稲荷へバスを走らせる。途中佐野幹事の親類の人の出迎えを受け稲荷様と市内見学。大変親切な方で物産館、城山公園、奥田陶器製作所と案内して戴いたがお蔭で笠間市の情報が多く集まった。城山公園では菊作りの準備作業や「大石良雄」の銅像には驚く。播州赤穂城に行く前は笠間城主は浅野家であった関係で城代家老であった、大石良雄のことは我がことのようにあつかったのがこの立派な銅像という訳である。城跡は公園となり市内が一望に見渡すことができた。紅葉には一寸早かったが菊作りなど秋の準備に忙がしかった。益子焼の原点とされる笠間焼の勉強に奥田陶器製作所へ行く。ずっと案内して呉れた、松本さんの親切さに感謝しながら笠間市を後にした。

（近藤記）

（写真は袋田の滝をバックにした一行）

湊地区懇親旅行日記

湊地区恒例の懇親旅行、今年は萩、津和野、秋芳洞と遠路山陰・山陽地方へ〝大名旅行〟を実施しました。

10月24日（金）午後6時30分、総勢29名が東京駅銀の鈴へ集合、午後6時45分発特急寝台あさかぜ1号に乗車東京を離れる。用意したお弁当と飲物を配り談笑に時を過ごす。列車の心地よい揺れにいつしか眠りにつく、床が変わったせいか浅い眠りで目覚めると白々と夜が明けていた。間もなく広島だ。25日午前6時28分広島駅に列車は滑り込む。ここで予約した朝食弁当を積込み全員に配給、朝から杯をかたむける。8時30分防府に到着、駅前に待機していた防長バスに乗車出発進行。防府天満宮を参拝し津和野市内に入り下車する。その昔つわぶきが生い茂っていたという、石畳路の野――そして「津和野」と呼ばれるようになったと伝えられる。いま山陰の小京都といわれる津和野は、美しい自然と七百年の歴史につつまれて、訪れる旅人にやすらぎを与えてくれる。城下町の名残りをとどめる白壁の古い町並み、殿町の堀割の清流に群れ泳ぐ鯉は見事としか言いようがない。明治の文豪森鷗外の旧居も市内にある、鷗外は森林太郎といい文久2年この家で生まれ、6歳まで藩校養老館に学び11歳の時、父につれられて上京し、その後ついに一度も津和野に帰らなかった。大正11年61歳で歿している。鷗外が医学博士であり軍医総監であったことはよく知られている。紙スキ工場で和紙の実演を見学、太鼓谷稲成神社を参拝し市内の松韻亭で昼食をとる。この松韻亭は津和野藩第三家老の屋敷跡で庭園が素晴しく、食前にお抹茶を立ててくれるのもいかにも津和野らしく思われた。津和野をあとにバスは山口市内に入り、わが国に最初に渡来したキリスト教布教師、フランシスコサビエルの来朝四百年を記念し、昭和27年亀山の山腹に建てられたサビエル記念聖堂を車中かが眺めて通過瑠璃光寺に到着する。瑠璃光寺五重塔前で全員記念写真を撮る。この五重塔は五百数十年前室町初期に建造されたもので、優美な曲線を描く五層の檜皮葺屋根は、往時のはなやかさをしのぶことができます。次いで常栄寺雪舟庭に足を進めました。この庭は、およそ四八〇年前、大内政弘が田妙喜尼のため画聖雪舟に命じて造らせたもので、石と水との素朴な庭は雪舟の画風そのものです。雪舟は室町時代の山水画の巨匠です。ここまでが25日のスケジュールで、あとは私達一行を待つ湯田温泉のホテル常盤へ数分で到着です。

予定時間の午後5時より早くホテルに着きそれぞれの決められた部屋に入り旅装を解く。宴会時間までゆっくりと温泉に身体を沈め一日の旅の疲れをほぐす。湯田温泉には面白い伝説があります。その昔白狐が足の傷をいやすため池に入るのを見た和尚により発見されたという話しです。閑話休題、いよいよ最大のイベント、宴会の始まりです。宴会前の挨拶を形通り行な

い芸者衆のお酌が注ぎ終わったところで乾杯、山海の珍味をたのしみながら痛飲する。山陽路随一を誇る湯田温泉だが聞くところによると芸者の総数は14名ということ、そのうち5名を呼んだのだから大変な大名旅行というわけです。それはまことに結構なのですが、来た芸者が揃いも揃って大錦か小錦かというまことに健康優良女には参った。それにひきかえホテルの若奥さんがすこぶるつきの美女ときてはあまりの差が大きく好き者の多い湊地区の面々もちょっかいを出す者皆無でした。ホテルのサービスの太鼓の舞い、芸者の踊りを見ながら談笑、いつしか夜も更けてお開きになる。

昨日は初夏を思わせる程の好天で汗ばむ程だったが今日26日は今にも降りそうな曇天になっていた。思い出の湯田温泉を後にして今日は萩の見物である。萩は山口県の西北部にあって日本海に臨み三方山に囲まれ、市内には阿武川が流れる文字通り山紫水明風光明美な静かな町です。慶長9年毛利輝元が防長2州の都として城を構えてから文久3年まで約二百六十年間36万石の城下町として栄え、明治維新の英材を数多く世に出したことは皆様よくご存知のことです。松陰神社参拝、吉田松陰が幕末の激動期に2年半にわたって子弟を教育した松下村塾を見学、毛利氏の菩提寺である東光寺から萩城趾に車を進める。萩城は指月城とも呼ばれ、毛利輝元が36万石の居城として築いたものだが明治維新で取り壊され、現在は石垣や堀などを残すのみである。そのあと武家屋敷を散策する。ここは他所の武家屋敷のように後年観光目的で造ったものではなく往時のままのたたずまいで、木戸孝允（桂小五郎）の生家、高杉晋作の旧宅など見学、往時を偲んだが、後に陸軍大将であり総理大臣になった田中義一が藩の「かごかき」の子供として生まれたことが記されていたことに興味をそそられた。人間の平均寿命の短かかった時代とはいえ、吉田松陰も27歳で断罪され、高杉晋作も同じく29歳で病死しているが、幕末から明治にかけて優秀な青年が多かったことに感服した。萩観光ホテルで昼食後、萩焼窯元により窯の実体を見てそれぞれ土産を買う。いくらか雨模様の中をバスは秋芳洞、秋吉台へ向う。

秋吉台は日本最大のカルスト高原として学術上世界的に有名で、「特別天然記念物」の指定を受けております。秋吉台の南麓に開口する東洋一の大鐘乳洞特別記念物「秋芳洞」は天皇陛下が大正15年皇太子の時においでになった時その名を賜ったものであります。洞内の規模は雄大で最も広い所は一望200米、天井の高い所で40米、その延長は10粁で千変万化の鐘乳石、石筍、石灰華は地下の大殿堂を思わせます。秋芳洞観光を最後にしてバスは宇部空港へ向います。宇部空港で搭乗時間までの間に夕食を取り、全日空700便に乗り、午後8時20分全員無事羽田空港に到着しました。つたない文章ですが、今回の旅行の見どころをざっと記してみました。百聞は一見に如かずとか、興味が湧きましたらどうぞお出かけ下さい。

（中山　記）

有機溶剤作業注意事項
パネル板の頒布について

このパネルは印刷工場内の壁に貼りつけておくもので、労基監督署の要請により必ず貼り付けておくようにとの事です。一枚100円、希望者は各地区長又は支部事務局迄申込み下さい。現在、労基局の抜打ち査察も行われており、10名～20名の規模が査察対象となっています。

原稿募集

京橋の印刷はお蔭様で本号で通計六十六号となりました。支部報は、創刊以来「支部員の手による、支部員のための支部報」という方針で製作、編集して参りました。今後もその方針でみなさんのお役に立てたいと編集員一同心がけております。そこでよりよい支部報発刊のためみなさんの原稿を募集します。みなさんの中には趣味として、短歌、俳句、詩、川柳、随筆などの他ご意見、ご要望等お持ちの方が多々あるかと思います。特に最近のように環境が一段と厳しくなって参りますと何かと大変かと思いますが、相互情報交換の場としてもご活用頂ければ編集委員としましてもこれにすぐるものはありません。

何卒みなさんのご投稿をお待ち申し上げます。

編集委員一同

支部の動き

9月4日　本部支部長会、於・印刷会館、小山支部長出席。

9月10日　㈱榎本印刷所新社屋落成式、於・同社新社屋、小山支部長他多数出席

9月10日　本部総務委員会、於・印刷会館、小山支部長出席。

9月11日　部長・監査・地区長会、於・支部室

1、支部長会報告事項

・税務調査の状況について、4回あり

・新加入組合員懇談会開催結果68名参加

・委員会開催状況

総務委員会―財政分析と組合員への周知、経済事業活動による収益の増強、各種規程の見直し

資材委員会―副資材価格調査の実施、保守契約問題、関係会社との折衝

・全印工連事業について

・日印産連事業について

有機溶剤管理のポイントの作成、税制改正への要望（大型間接税、水源税）

会社法改正の検討

2、本部事業推進について協議事項

・組合員加入増強運動の実施について

・プリンティングフェア'86東京について

・「21世紀を開く印刷展」開催について

・「東京ドキドキフェア」参加について

・PR冊子、PRビデオの活用について

・第2回営業士認定講習の活用について

・「敬老の集い」について、9／19明治神宮

・永年勤続従業員表彰式、9／27新橋演武場

・「第19回本のまつり」について

3、支部提案事項

支部長宛郵便物の合理的発送について（荒川支部）

4、当面する支部事業について

・中央区工業文化展、10／23～10／28、高島屋、協賛金協力のお願い、京橋70万円予定、

・その他

有機溶剤取扱注意板の頒布

9月18日、本部理事会、於、印刷健保会館、小山支部長他理事出席

9月19日、「敬老の集い」、於・明治神宮、小山支部長他出席してお祝いする

9月22日、中央区工団連実行委員会、於・中央区役所、小山支部長他実行委員出席

9月27日、永年勤続従業員表彰式、於・新橋演武場、小山支部長出席して祝う

10月8日、中央区工業文化展搬入打合せ、於・支部室、小山支部長、実行委員、出展業者

10月13日、同文化展搬入打合せ、於・高島屋、小山支部長、実行委員、高島屋社員

10月13日、本部総務委員会、於・印刷会館、小山支部長出席

10月14日、中央区工業文化展実行委員会、於・中央区役所、小山支部長、荒川・佐藤・岩尾各実行委員出席

10月16日、部長・監査・地区長会、於・支部室、

1、支部長会報告事項

・東京都議会の陳情付託について

・業界講師推せんについて

・都知事表彰について、利根川氏10／1

・行政相談について

・'86中央区工業文化展について

・第2回港区産業文化展について

2、本部事業推進について協議事項

・中央会研修事業について

・賃金調査実施について、500社

3、支部提案事項

・オフコン導入による事務の合理化

・PS版、紙、フイルム等の円高差益の還元について

・不良紙による機械停止時間の補償

・OA機器の保守料の引き下げについて

以上4件（文京支部）

・有機溶剤注意事項パネル（墨田支部）

4、当面する支部事業について

・中央区工業文化展出張当番について

・協賛金納付額、京橋支部79万円

・京青会主催講演会「桂小金治」、11／19、中央会館、京青会主催の桂小金治講演会の協催、経費補助、京青会へ経費半額補助

・新年臨時総会で組合功労者へ記念品の贈呈、並びに支部退任役員（前期）に

記念品、感謝状を贈呈

10月21日　中央区文化工業展搬入立合、於・高島屋、小山支部長

10月22日　同文化展会場作業、於・高島屋、荒川・佐藤・岩尾各副支部長

10月23～28日　中央区工業文化展開催、於・高島屋八階催場、（本文参照）小山支部長他出席

10月30日　㈱モリイチ会長及び相談役の社葬、於・千日谷会堂、小山支部長他列席

11月3日　中央区中小企業発達功労者表彰式、於・中央会館、中村・石沢両顧問が受賞

11月6日　中央区工団連正副会長会、於・中央区役所、小山支部長出席

11月6日　本部支部長会、於・印刷会館2階、小山支部長出席

11月7日　文化産業信用組合総代会、於・出版クラブ、小山支部長出席

11月8日　千代田支部物故者慰霊祭、於・上野寛永寺、斎藤・石沢両顧問列席

11月10日　本部総務委員会、於・印刷会館、小山支部長出席

11月13日　部長・監査・他区長会、於・支部室

1、支部長会報告事項

・税務調査について

60年度処理事項、60年度修正申告、会計処理基準の検討、支部の問題

2、本部事業推進について協議事項

・第3回印刷営業士認定講習会開催、62年1月27日より2週間

・コミュニケーション21の開催について

・組合加入促進運動について

3、支部提案事項

・栃木印刷文化展での全印工連の従業員表彰についての支部への通知の件、（千代田支部）

・第3次構改の支部内PRについて（説明に充分な時間を要す、文京支部、山之山支部）

・印刷関連のビデオ借入れについて（製紙メーカー、インキ等、豊島支部）

・印刷関連機器等のリース料金等の変動相場制を組合として交渉（墨東支部）

・事務局旅行の月末実施に関する通知の徹底、（江東支部）

4、当面する支部事業について

・新年臨時総会の会費について、組合員は弐万円、関連業者弐万八千円、ホテルとの折衝は、大竹・白橋副支部長、

・中央区工業文化展、来場者数一万四千五百人

・年末役員会（部長・地区長・幹事）、12／12、京橋会館、会費五千円

⊙会議中、本部富田副理事長（厚生所管）がわざわざ見えられ、当支部の組合共済制度加入推進運動に対する努力にお礼の詞がありました

11月19日　本部理事会、於・健保会館、小山支部長他理事出席

11月19日　京橋支部印刷人青年会主催講演会、講師・桂小金治氏、会費千円

支部員の移動

加入組合員（61年10月）

エーピーデー㈱、荒木城介殿、京橋1―11―5　電話551―8643、（京橋地区

脱退組合員（61年11月以降）

・千信堂印刷㈱（新川地区）、岩佐信一氏

・明治印刷㈱（新川地区）、板岡祐一氏

支部移動（61年9月）

本橋印刷所（月島地区）、本橋享介殿、江東支部へ転出。

住所移転

・㈱榎本印刷所（八丁堀地区）は新社屋建設完成に伴い八丁堀4―11―4に移転しました。尚電話は従来どおり。

・㈱あーと・そうご（湊地区）、湊3―1―3に移転しました。（社名も従来のそうごから変更になりました。）

お悔み申し上げます

▼京橋地区、㈱モリイチ相談役、森市兵衛殿が御逝去されました。

▼銀座地区、橋本印刷㈱、社長次女、松本明美様が御逝去されました。

"江戸"のルーツ

日刊食料新聞五月十九日付コラムより転載

▼「武蔵野のはじまるところは鎌倉より五、六里なり、一国おしなべて野なり」とは「武蔵多摩名勝図会」に見えるところである。天正以前（家康入府）の武蔵国の茫漠たる野景が手にとるようである。その範囲も定かではなかった。東は隅田川、西は大嶽―秩父、南は多摩川、北は荒川を境にした多摩、橘（たちばな）、豊島、足立、新座、高麗、比企、入間などの二十郡に区分されていたという説と、多摩、橘樹、都築、荏原、豊島、足立、新座、高麗、比企、入間の十郡説の二説が古書にある▼築地も神田も新宿もその頃はまだ見当たらないが、荏原、足立、豊島といった地名だけはあったというわけ。中でも荏原にまつわる諸説は特に面白い。江戸のルーツは荏原であるとした興味深い話までが伝わっているからだ▼長禄元年（一四五七）に太田道灌が入府する以前にすでに「えど」という地名はあった。古書はこの地名に三つの根拠を与えている。一つは江戸四郎重継の支配した土地だから、二番目は「荏原郡に群生する"荏草（畳表の藺草ではない、荏ゴマとも、ヨモギに類した草ともいわれている）"からの、つまり"荏草の土地"からの"荏土（えど）"とした説、その三は江所（えどころ＝入江のある津浦＝）だから―がそれ▼注目すべきは荏草の群生する荏原郡が「荏土（えど）」として江戸のルーツにあげられていることだ。どのような草だったかは定かでないが、延喜式（延長五年＝九二七＝に完成した宮延行事大典）に武蔵国から「紫草根三千斤奉つる」が見えるところからすれば、染料の原草とも察せられる▼―この荏原を拠点とする荏原市場の開場五十周年式典が十八日挙行された。大井移転も"われこそ江戸のルーツ"をゆめ忘れざらんことを―。

（妙竹輪）

編集後記

▼昭和十六年十二月八日は日本人にとって忘れることのできない日である。そこで本号は発刊月、十二月に合せた表紙を採用した次第である。写生に没頭していた松原画伯は、この日の朝、雲一つない好天の沼津附近で富士山に取り組んでいた。ニュースを聞いて急ぎ帰京したという。五十三歳の時の作品である。一日中勇ましい「軍鑑マーチ」に明け暮れた日であったことを思い出す。あれから四十五年、間もなく半世紀になろうとしている。

▼中央区工業文化展は好評のうちに幕を閉じた。小山支部長を始め各担当の役員および当番の幹事のみなさんご苦労様でした。中央区の場合は区の特色として「わが街」には程遠く感じられるのですが、来場者は高島屋という場所柄もあり一万五千人を数えました。大変すばらしい数字ではありませんか。

▼ところでこのわが街の産業はと見ると驚くなかれ八〇・七％の人が出版印刷であり、工業数では七八・一％が出版印刷というではありませんか。都内二十三区の中でこんな区はありません。我々京橋支部員としてはこの数字をもう一度ジックリ見直して「我が街」を別な面から取り組んでみたらどうでしょうか。

▼六十六号は地区だよりが三地区から集まりまして編集子とすればこんな嬉しいことはありません。しかも各地区の記者さんが、それぞれ文章に情熱を持って書いていることです。原稿募集の案内が通じたのかなあと思っています。

▼有機溶剤の講習会の案内を掲載しました。是非一人でも多く参加して下さい。最近各支部で労働基準監督署の査察があり即座に改善命令が出されている中で一番多いのは有機溶剤に関するものだと聞いています。小山支部長もこの問題は軽く見てはいけないという訳で各地区の会合には自から要請にお伺いするそうです。査察を受けてから知らなかったでは通りません。特にこの査察は抜き打ちですから経験者の話をよく聞いて、講習会に出るようお願いします。

▼今年最後の支部報です。あっという間に今年も終りです。編集子一同満足な支部報が発刊できなかったことで反省しきりです。どうしたらみなさんにほめられる支部報ができるか遠慮ないご意見をお寄せ下さい。ではまた来年に。

（近藤記）